

# 様式 2

## 平成26年度 安曇野市食育推進会議（第2回） 会議概要

1	審議会名..... 安曇野市食育推進会議（第2回）.....
2	日 時..... 平成26年10月27日 午後1時30分から午後3時00分まで
3	会 場..... 穂高健康支援センター.....
4	出席者..... 本郷会長、高橋副会長、小室委員、阿部委員、梨子田委員（代理）、 帯刀委員、南沢委員
5	市側出席者..... 宮下保健医療部長、宮下健康推進課長、高橋課長補佐、竹澤管理栄養士、 渡邊保健師、小松管理栄養士、柴田栄養士、牧瀬管理栄養士、長田管理栄養士、 小川管理栄養士
6	公開・非公開の別..... 公開.....
7	傍聴人 0人..... 記者 0人.....
8	会議概要作成年月日 平成26年11月6日

協 議 事 項 等	
1	会議の概要
(1)	開 会
(2)	保健医療部長あいさつ
(3)	会長あいさつ
(4)	協議事項
①	平成26年度食育推進事業進捗状況について
②	平成27年度食育推進事業計画について
③	弁当の日について
④	その他
(5)	閉会
2	審議概要
①	<input type="checkbox"/> 平成26年度食育推進事業進捗状況について
(会 長)	平成26年度食育推進事業進捗状況について事務局より説明をお願いします。
(事務局)	平成26年度食育推進事業進捗状況についての説明
(会 長)	平成26年度食育推進事業進捗状況について、ご質問ご意見等ありましたら、お願いします。非常に盛り沢山の内容でしたが、今年重点的に行った事業はどんなものがあるのでしょうか。
(事務局)	毎年行っている事業が主ですが、今年度特にといつたら健康づくり講演会の中で食について市民にお伝えできたというのが一番メインだったと思います。その中で信州大学から貸していただいた食育SATシステムを使ってより具体的に分かりやすい講演の内容になったのではないかと思います。
(会 長)	市民の皆さん対象ですか。
(事務局)	はい。
(委 員)	その講演会に参加された年齢層、どのような方が参加されましたか。
(事務局)	対象として考えていたのは、乳幼児のお子さんをお持ちの保護者、祖父母の方で広報しました。来ていただいた方は、保護者というより祖父母にあたる年配の方が多かったかと思えます。ご自分の健康を見直してもらう機会にもなったのでよかったです。
(会 長)	講演会はこの場所で行ったということですか。
(事務局)	ロビーで試食、展示を行って、集団指導室で講演会を行いました。
(会 長)	食育SATシステムの評判はどうでしたか。
(事務局)	感想を聞くのを忘れてしまったんですが、私個人の意見として、とても伝えやすかったというのがあって、ご自分の食事を見直す機会になったので、よく理解してもらえたと思えます。
(会 長)	これは大人の方だけですか。
(事務局)	はい。
(会 長)	先週の水曜日、管理栄養士3人位と一緒に栄村の中学校へ行って、生徒全員参加で50人位しかいないもので、生徒さんにいくつかグループ作ってもらって今朝食べた物とか、昨日食べた物とか、悪そうな物とか、こんな風に組み合わせたら栄養素のバランスが悪いんじゃないかとかそんなこといろいろとやってもらって50分授業を2回やってきたんですよ。出前授業といえますか。保護者の方も何人か見えて、先生方も喜んで、ビール載せたりとか、つまみ載せたりとかしてやっていました。また機会があればご家族でやっていただけると効果が高いです。家族ってほしい同士の食べますし、同じもの作りがちですよ。なかなか星印たくさん付かないけども管理栄養士さんに

いろいろと指導していただいて、勉強になるんじゃないかなと思います。家族小さいお子さんたちも一緒にやってみるとより効果がみられるかなと思います。またご希望あれば言ってください。

(事務局) ありがとうございます。

(委員) これって実際に食べさせるんですか。品物を置いてあるだけなんですか。

(事務局) フードモデル、模型が置いてあります。

(委員) 模型が置いてある。それで自分の食べた物を選んでどういう状況かが分かる。

(事務局) すごいのは、お肉が2枚しかないのを4枚食べたいといたら計算してくれるとか、ラーメン飲んでもその汁は飲まないとか、ただポンと置くのではなく、個人的にこれは食べるけどこれは食べない、これは倍食べたいとかそういうのを全部入れてくれるんです。だからやりたい人は正しい値になるまでどんどんやってみたいんですが、他の人は後ろに列があるので後ろを見ながらこの辺までという感じだったので、多分もっとゆっくり自分が適正になるにはどうしたらいいのかということまでやると、一人15分位かかっちゃうんですね。そうするとある程度でやるしかないねっていうような感じだったので、本当に勉強したいとなるとそこまでやってあげると、最後納得して帰れる位までいけると思うんです。非常に好評で皆さんやりたいんですけど、並んじゃうので。

(委員) 人数少なくして回数やるといい。自分自身も好きな物たくさん食べちゃったりするから、そういう物を計算してくれるということですよ。

(委員) 6月の食育推進全国大会に食育SATシステムが何箇所かに置いてあったと思うんですが、模型を自分の好きな物置いてやっていて、そんなシステムがあるのを始めて知ったので、非常に勉強になった。いろんな会場で機会ある毎に多分ここに集まった方くらいしか知らないと思うので、いろいろな機会を通じて取り組んでいただければいい。先ほど高齢者の食生活というのは見習うべき要素がたくさんあるっていうお話があった。この健康づくり講演会をみると60代以上の方が多かったのかなと思うので、それ以下の方々がどんな風に参加したいのかっていうことのアイディアを出して、改善がないと多分右肩下がりになっていくのかなと思う。そういうシステムもあればいい。こないだの食育推進全国大会なんかは全てを網羅したような形で、安曇野市もそれはできないにしても若い人から若い人、高齢の方までいろんな面で参加できるようなプログラムがあった。ああいったものを年に1回位は、安曇野市中で見つめる機会を例えば1週間くらいロングランでやるとか、それは無理にしても例えば4会場位に分けてやるとかいうような形で多くの方に参加してもらい機会にした方がいいのかなと思いました。

(会長) たくさんの方に来ていただけると思います。私も今までいろんなところでお話してきましたが、したつもりでも伝わっていないというのが現状だと。信大では5年くらい前からあるんですけど。学校にお邪魔して生徒さんにお話したり、家庭科の授業をいただいてその中でそれを使ってやったり、大学病院で無料の生活習慣病予防外来っていうのをやっているんですが、家族に来ていただいて一家族1時間半くらい無料でやっています。採血から始まって食育まで。そういうのもいろんなところで宣伝しているつもりです。県内そこら中から見えているんですが、家族でやるっていうのがいい。なかなかやっているつもりでも伝わっていないというのがそんな感じで、今お話がありましたように繰り返し繰り返しやっていくっていうのが大事じゃないか一人でも多くの方に体験していただいてそこでまたいい方向にいていただければと思う。

(委員) とても幅広くいろんなことやっていただいてありがたいなと思います。なにより先ほどから話題に出ています食育の全国大会、安曇野市さんでブースをもっていただきまして、大変人気のあったブースで市として食育の会議で出していたので、皆さんでやっていただいて良かったと思います。特にスイーツが安曇野市は出っていたので、行った時には既になかったんですけどね。私達も長野県としてのブースでね、やらせていただいたんですけども本当にあそこでいろいろな方たち、食育関係者が集まっている体験できたり、長野県の方たちがたくさん参加してくださって目標2万人が目標だったんですけども2万7千人くらい集まってくださって1.5倍くらい的人数、前年やりました広島が2万人だったと聞いたので、それ以上に大勢集まっていただいて関心の高さが伺えたという気がします。PRになります。閉会式の時にこれから長野県でやっていかなくちやいけないこと、ACEプロジェクトの立ち上げを阿部知事がやってくださいました。寿命はエースなんです。これからやってかなくちやいけないことAは運動、Cは健診、Eは食べる、その3つを力強くやっていきましょうという宣伝もされまして、それを基に私達もこれからやっていく、今までやってきたことを反省しながらやっていくところなんですけどもその先端に安曇野市がやってくださいまして、こちらの計画も順調に進んでいてありがたいことだと思っております。

(会長) 安曇野市のブースはどんな内容だったんですか。

(事務局) 農業協同組合さんから農業活動の1年間の活動をまとめたパネルを展示していただきました。そして商工会さんの方で安曇野野菜スイーツの紹介、調理師会さんの方で味覚の1週間という授業のこと、どんな内容で子どもたちの反応はどうだったかというまとめたものを作ってくださいまして紹介しました。安曇野市食育推進会議からは第2次計画の冊子を出して作りましたということで紹介しました。

(委員) どこに行っても安曇野って響きがとてもいいって言われて、秋田に行った時に安曇野って行ってみたいっていう人がいて、ああ安曇野なんだよなって思って聞いていたのと、あと松本地域として生坂と筑北と麻績村の小さな村の活性化を図る時に北安曇野って名前を付けてPRしてはどうかっていう意見が出ていて、知事さんが取りついているいろんなコメントを載らせてくださっているんですが、

安曇野っていうネーミングもものすごくいいもので、北安曇野は今まで聞いたことがなかったの  
でビックリしているんですけども、安曇野っていういろんなところで注目されているなって感じていま  
す。食育の全国大会も安曇野って聞いて皆さんいいイメージでとられたんじゃないかなと思いま  
す。

(会 長) ありがとうございます。ここにご出席していただいている皆さんがまとめて出されたってこと  
ですね。素晴らしい取り組みをされているということで、今後もぜひPRしていただいて安曇野とい  
うのは私も他の大学の先生とか遠くから呼ぶんですけど、安曇野をご案内する人多いんですよ。泊ま  
りでどっかの温泉で。すごく憧れている土地の名前みたいですね。

(委 員) 食事はどうですか。我々やっている立場で言われちゃって、先週も旅館の方々、宿泊施設の人集め  
て和食の講習、旅館の料理長クラス、温泉郷からペンションの方たちですね、また来月も商工会主  
体でやっているんですけども何が楽しみかという食事という部分で我々もいい話ばかりじゃなく  
て苦情も聞かせていただいて日々努力しなくちゃいけないかなってということで取り組んではいま  
すので、あと食育のことでついでといっちはあれですけど、味覚の授業の話が出たので先週からや  
っていて、松本の本郷小学校と諏訪の小学校で味覚の授業をやりました。安曇野は実は明日なん  
ですけども穂高南小学校で5年生、3クラス我々がまた調理師会で10何人行って生徒さんたちと一緒  
に味覚の授業をやります。それで実は先月東京で味覚の授業を展開している事務局の事務局長さんと  
事務局の人2人で、保健センターの調理室を借りて講師の勉強会をやらさせていただきました。長野  
とか大町、それぞれの方々に参加していただいて、役場の方も穂高の方も出席していただいて、  
講師の勉強会をやりました。だいたい長野県も今回千曲市でもやったりだとか、多くの学校で取り組  
んでいただくようになって安曇野市がまず第2回目から今回3年目になるんですけども取り組んで  
いるという事で、東京の事務局の方々も評価していただいて、わざわざ来ていただいて勉強させて  
いただきましたので、毎年これから安曇野市中の小学校を順番に回りたいという事で取り組んでいま  
すので、よろしくお願ひいたします。

(委 員) 学校にいながら始めて伺ったんですが、3年目ということは今年で3校行うんですか。

(委 員) 第1回目が堀金小学校で、去年は豊科北小学校で、今回が穂高南小学校で、来年は明科行くか、三郷  
に行くか、いずれにしても小学校10校位を順番に回ろうかなということではしています。

(委 員) 小学校限定なんですか。

(委 員) 小学校3、4年生は授業だけなんです。ようするに味覚っていう甘いしょっぱいのがいの五味、それ  
に日本料理が世界の文化料理に登録されたということで去年から旨味という甘いしょっぱい以外の  
アバウトな部分ですけどもその旨味が評価されたものですから今年はダシを授業の中で今までは、  
昆布だしとか椎茸のだしだとかかつお節のだしだとか。そういうだし汁を作って飲んでもらおうか  
なという予定でいます。そこにちょっと塩を加えると尚旨味が増すとかそういう部分でダシをと  
ただけのものを飲んでもらってそこに塩分を加えることで醤油を加えることによってまた深みが増  
しますよという授業にしようかなということ、実際の料理を作るのは5、6年生だけで料理実習は  
できないということで、安曇野市は5年生を対象に3、4年生は授業だけで終わりなんですよ。他  
の本郷小学校はもしかしたら授業だけだったかもしれないけど、穂高南小はラタトゥーユを作  
ってそれを生徒さんたちと一緒に作っていただいて教室で食べてもらうというところまでやる  
予定で、去年旬ちゃんでしたっけ、ぬいぐるみも来たり、今年も安曇野市も宣伝してくれ  
てことで安曇野市のぬいぐるみも来るようなことを聞いてるんですけども。

(委 員) それは食育計画の一環なんですか。それとも商工会さん独自のことでですか。

(委 員) 調理師会が呼びかけてきて、堀金でどうしてやったかという長野のメトロポリタンとい  
うところの料理長をやっている板花さんが先立ちで自分が堀金だもんだから自分の子ども  
さんのクラスがちょうど5年生でいて、それで真っ先に校長先生、担任の先生にお話したら  
即OKになったのと、今教育委員会の方にも事務局を通じてお話をしています。それで学  
校をどうするか決めるのもこちらで選んでくれという風に来ているもので我々の方で  
勝手に決めさせてもらって学校の選定なんかはしている。先週9時のニュースで味覚の  
授業を埼玉県でやっているのが映っていました。コック帽を生徒さん全員にかぶって  
いただいて砂糖とか塩とかみんな並べといて、なめていただいて舌のどこで感  
じるか。酸っぱい物はどんなものがあるか等話をしながら授業を午前中全部使っ  
て4時間位、お昼まで今年は生徒さんと一緒に給食も食べるようなことを言  
ってましたけども、学校の給食もどんな状態か。明科は何クラスですか。

(委 員) 明北小学校は1学級、明南小学校は2学級です。

(委 員) 私は会長じゃないもので、また話しておきます。

(委 員) お弁当の日とかいろいろなものが学校に入ってくると、学校でもなかなか時間の確保が  
難しいですね。そういう講師まで育成されている企画があるのであれば、先ほど最初にお話  
のあったいろんな課に渡ってつながっていくというのも考えながら、一緒にそこに向か  
っていけるような進め方をさせていただけるといいな。弁当の日も弁当の日であ  
って、どちらもいつぺんに来るってなるとなかなかそのところは厳しいですね。

(委 員) 先週やろうと思ったら音楽会ということで今週にずれたんですけど、早めに情報  
を流したり、年間計画ってものを4月には予定立てちゃうんですかね。一年間の。前年度に  
立てちゃう。その前にできれば連絡してやった方が日程的には組みやすいという  
ことですか。

(委員) できれば本当に食育計画の中に組み入れるとなると関連して勉強しやすいかなと思います。

②平成27年度食育推進事業計画について

(会長) 平成26年度食育推進事業予定について事務局より説明をお願いします。

(事務局) 平成26年度食育推進事業予定についての説明

(会長) 平成26年度食育推進事業予定について、ご質問ご意見等ありましたら、お願いします。

(会長) もう決まっているのは、弁当の日に関連した講演会ということですか。

(事務局) 決定ではないです。予算をとる前なので、予算がとれたら弁当の日の先生をお呼びしたいと考えています。

(会長) 保健指導の要検討とは具体的にはどういうことですか。

(事務局) 要検討は、3つの小学校でどういう形でなら実施ができるのか、養護の先生と話し合いをしたり、学校教育にも入っていただかないといけないので、そういったところの打ち合わせをしていきます。

(会長) 2つ位が新しい事業の予定ですね。他にたくさんの継続事業がありますが、進捗状況といますか、予定よりも進んでいるものからそれ程でもないものいろいろあると思うんですが、まだ進めている最中だと思うんですが、どの辺りが特に進んでいて、まだ進捗が遅いものからいろいろあると思うんですが、どんな状況ですか。

(事務局) 該当する課でないとは詳しいことは分からないのですが、健康推進課としては、順調に進んでいます。ほとんど年間事業の中で健診、教室を使つての食育推進活動になっているので遅れているとかそういったことはないです。内容は常に見直して、より良い内容になるように検討しています。

(会長) 来年度の重点的などころは、今の新しい事業ですか。

(事務局) 来年度重点的に行うのは、弁当の日の検討と、保健指導実施に向けての事業になります。講演会も開催するんですが、弁当の日の話をするにあたって保護者の方にたくさん来ていただきたいというのがありますので、周知の方法とか魅力的な内容になるように考えていきたいと思います。

(会長) 食育SATシステムもどこかで計画を立てて、弁当の日の講演会でもいいです。より効果的・効率的といえますかね、人数少なくてもいい、私は家族が一番いいと思うんですけど、やってみるとたくさん並ぶと思う。とてもさばききれないと思う。うち2台しかないの、2か所でやることになると思うんですけどね。なかなか高価で1セット150万円位する。なんとかならないか考えているんですが、特許とかいろいろあって簡単に出来かねるところがあるんですね。松本大学に1~2セットあるのかな。私が言ったこともご検討いただければと思います。

(事務局) はい。

(会長) これ中間報告になっていますけど、最終的にまとめるのは来年の2月頃でしょうか。

(事務局) 来年の2月ではなくて、事業が終わったところで集計したいと思いますので、来年の6月位に1回目の会議を開催しますが、その時に報告したいと思います。

(会長) 盛りだくさんで、平面的で分からないところもあるので、重点ポイントというか、より力を入れて、どれもこれも力を入れてやっているんですが、その中でもここが売りだよというのを安曇野市として、安曇野という名前は日本中に広がっているの、内容的にも他でやっていないという全国初の取り組みというのをぜひ知恵を絞っていただいて出していただければ、先ほど食育推進全国大会で好評だったというのがありますので、ぜひオリジナルなものを出していただければと思います。安曇野の名産で、わさびとか全国的に名前が知られているのは、どんな物があるんですか。

(委員) 信州サーモンっていうのが、明科の水産試験場で県が開発した魚なんですけど、その井ぶりであったり、ホテルやレストランで安曇野の食材コースということでメニューに入れて売っているんですけども虹鱒に比べれば数段出ます。虹鱒は旅館でも朝食に出せば、皆残っちゃうとかいうような話なんです。豊科は玉ねぎ。わさびは主食にならなくて、去年もわさびをスイーツで取り上げて、今年はトマトということで取り組んでいます。あとはリンゴが三郷、お米ということでそれぞれの商品を生かせるような形でなおかつこの特産、毎年いろいろな形で取り組んで、おひさまっていうテレビ放映の時もおひさま御膳ということで安曇野の食材をいろいろ取り入れた物をお弁当で取り組んだりしたんですけども、知らない人も多いんじゃないかなと思う商品でなんとなく消えてきちゃって、今年は来月そば祭りっていうのを穂高神社で15、16日とやるんですけども、その時に昨年はおひさま弁当を出して不評だったので、おひさま井ぶりということで今年は取り組んで、安曇野産の豚肉もいい商品ということで豊科の玉ねぎとたまごの駅って会田養鶏さんが出したとこで安曇野産の卵ということで取り組んでいるので、井ぶりを試作中です。2日間で800食予定しています。安曇野っていったらこれだっていう物が思い浮かぶように。わさびでは全国1位だけれども主役になれないので、わさびソフトとかいろんな商品はあるんだけど、いいアイデアがあったら教えていただければそういう物を作ればと思って、毎年商工会からも指導いただいて予算も組んでもらったりして取り組んではいます。

(会長) 何かいい物があって、それが決まれば何とか井ぶりでもいいですけども。松本では、パンフレットで食べられる店を全部名前載せているんです。三ツ星、ミシュランじゃないけど、地図があってお店が載っている。安曇野のいい物ができたら、外から来た人もそういうパンフレットを見て、そこのお店の前には何か分かるものがあって、そんな形で何かできたら。

(委員) 安曇野市のPRをさせていただいてよろしいですか。私は、松本地域の広域の食育の事務局をやらせていただいています。広域の食を育むつどいというのが去年から行われていまして、今年は安曇野

市でやらせていただくことになりました。堀金の体育館で250席位階段席が動いて出てくるところなんですけども、12月10日（水）1時～4時位まで、食育の事例の発表を4題位と講師をシニア野菜ソムリエで太田奈穂さん、長野県では普通に野菜ソムリエいらっしゃるんですが、その中でシニア野菜ソムリエは2人だけだそうです。その方をお願いしていて、まだチラシが出来ていないんですけども、会場がこちらの地元なのでまたPRさせていただきます。ぜひ大勢来ていただきたいと思いますのでよろしくをお願いします。テーマは、野菜をたっぷり摂っていただきたいのと、塩は控えていただきたい、これって相矛盾することで野菜をいっぱい食べれば、塩も摂っちゃいますよね。けどそこら辺が長野県の塩の摂りすぎの欠点にも繋がってくるし、長所にも繋がってくるので、長所を生かして欠点をなんとか少なくしていくような工夫を皆さんで勉強したり、検討したり、意見を出し合ったりしていきたいと思いますのでよろしくをお願いします。心配しているのは、若い世代の野菜摂取量は年々減っていくことです。長野県中の調査をさせていただいても今の50代以上はかなり摂られているんですが、40代以下になると減ってくる現実をなんとかしないとそれこそ30年後には長野県は昔は長寿だったのになんて言われてしまっはいけないと思いますので、ぜひ野菜が美味しい安曇野でその辺りをPRさせていただきたいと思います。

(会 長) 今のお話すごく大事だと思うんですけど、食育SATシステムを中学生でやっても食塩だけは中学生でも多いんですよね。他のところはちょうど良くても皆食塩だけ多くなってきている。家庭の味付けといいますか作り方といいますか、そういうのは知らない内に多めになっちゃっているんでしょうかね。それがいいと思って、それをまた子どもに伝えている。食塩の課題っていうのは、自分では何とも思わなかったけど、データが出てきちゃう。なんとかしなきゃいけない。ぜひ今の講演会に行ってください、自分たちの問題のあるところは何か勉強して解決していくようにしていただければと思います。

### ③□弁当の日について

(会 長) お弁当の日について事務局より説明をお願いします。

(事務局) お弁当の日についての説明

(会 長) お弁当の日について、ご質問ご意見等ありましたら、お願いします。

(委 員) 弁当の日は親がお弁当を作ってくるということではなく、学校でお弁当を作るということですか。

(事務局) 弁当の日はいろいろやり方があると思いますが、学校ではなく家庭で、子どもが親に手伝ってもらわずに朝お弁当を作って、給食に持ってきて食べるというものです。

(委 員) 子どもが作って持ってくるんですね。

(事務局) そうです。子どもが弁当を作れるようになるまでの教育を学校でしてもらわないといけないんですが、教育する時間をとることが中学校ではカリキュラム的に難しいということです。あと、中学生から始めても中学生は素直に受け入れてくれないかもしれないので、小学生から取り組んでいって、中学生に引き継いでいった方が取り組みやすいのではないかというご意見がありました。

(委 員) それは複数の意見ですか。素直に取り入れれないから小学校というのは。

(事務局) 小学校には家庭科教諭がないということで、私が先日打ち合わせをさせていただいたのは、中学校の家庭科教諭でした。

(委 員) 小学校の意見は聞いていないということですね。家庭科教諭ではなくても家庭科を担当している教職員の意見は聞いていないのですね。

(事務局) 1校だけ電話でお聞きしただけですが、小学校では5、6年生で家庭科の授業があるので、そこで2時間位であれば授業の時間を使うことができると思うということでした。

(委 員) 食のことは本当に大事で、学校でも日々給食を食べるところでも毎日職員室でも話題になる位のことです。なので大事に考えてこれだけ大きな取り組みを市でして下さるのは有難いと思っています。ただお弁当の日を入れるということは、かなりきちんとした段取りをしていただかないと、学校では何教育っていうのが20以上入ってくるんですね。そういう中でさらにこれを授業の時間を使いましょう、学校の授業として行ってくださいっていうことになるのとどこに入れていくかというのはとても難しいです。なので多くの意見を準備段階の中で聞いていただきたいというのが1つ要望です。中学の先生はそうやって小学校からいって、小学校じゃあそれは中学の理屈だとなるとなかなか余計に受け入れられないですね。中学生小学生ではなくて、正直まず親の意識だと思うんです。この推進計画もあるんですが、目標のところを見ると、乳幼児期では全部保護者がという文言が頭に入ってくる。でも学童期からは保護者がいないんですね。ていうと6歳以上はすべて自分がついていうことで目標書いていただいていると思うんですが、実際に小学校6年間ある中で子ども自ら全部できることはないですね。親の影響力、家庭の力はとても大きいと思います。ですのでも18歳までってすごい大きい中の目標ですが、家庭の影響はとても大きいので、ぜひ並行してでも親の方への働きかけもかなり重点を置いていただけるといいかなと思います。先ほど講演会の写真を見ても、見た感じお孫さんのことで来ているのかなっていう気配で、今お家の方、お母さん方、それを問題に思っって時間を割いてやっていこうっていうことが目に見えて出てこないですよ。ですの保護者を対象にPTAも全体会を各校でまず行う位、その時間の余裕がなければ、モデル校的なところでやってみてはいかがかなと思います。食育SATシステムも1つが37人で出来ることであれば1つの学校でやっていってどんな様子で取り組んでもらえるのか試験的に試してみたら市全体に広げていくとか。そのように進められた方が本当に広めていくとすると具体的に入りやすいんじゃない

かだと思います。私は代理ですが、養護教諭の会長という立場で来ています。そのことで各学校からの意見があります。お家の差はともあります。一人でのお弁当作りは急にハードルが高くなって、それまでの食育をどこまで段階を踏んでやってきて1つの食事としてのお弁当が作れるかっていう学習はかなり時間がかかるんじゃないかと思っています。いくつかある中では個人的な配慮、もしくはどこかの学校、学年というところでまずやりやすいところでやってみるっていう方が入りやすいのではないかと。それが不要ないとか、やめてほしいという意見ではなくて、行うための準備段階をきちんとしてほしいという要望がありますので、ぜひそこを十分に検討していただきたいと思っています。

(会 長) よく学校の先生とお話いただいて、私もよく学校にお邪魔しているんですが、全部ご意見を反映できてるとはとも思えなくて、お忙しい中でお協力していただいてご迷惑じゃないかと思っているんですが、その辺りをよく相談していただいて、学校で何を先生方が重要視されているかとか、どういったことをやったらより教育に行きつくのかという視点で考えていただければ、よりいいのかなと思います。

(委 員) 家も孫がいて、今小学校3年生なんだけれど、自分でいろいろ作りたいということで、やるんだけど火の問題とか、怪我させちゃいけないと思って、一緒に仕事しながら見てるからいいんだけど、じゃあ家庭の朝の時間で普通のお母さん方が今日お弁当の日だからといってお弁当作ってもっていきといっても子どもさんはいろんな部分で作ってこれるかっていうことが、ちょっと疑問な部分があります。各家庭で持って来いってことになると、かなりハードルの高い授業になっちゃうような気がします。それと個人差、家庭それぞれ主婦忙しいと思うので、朝は簡単に済ませて一緒に勤めに出て行っちゃう状態だから、結構きついんじゃないかなという気はします。方法をしっかりと検討していただいた方がいい。作った方がいいが、授業にならないっていつて頓挫しちゃうとせっかくの思いが残念だと思います。

#### ④□その他

(会 長) それでは、その他について事務局より何かありますか。

(事務局) 歯科口腔シンポジウムの開催報告

(会 長) 歯科口腔シンポジウムが11月15日に予定されていますので、ぜひ周知していただければと思います。他に何かありますか。

(委 員) 安曇野市食育推進計画概念図がありますが、JAあづみは来年度50周年を迎えます。50年をスタートし、100年に向けてということで農協としてどんな地域貢献ができるかなとプロジェクトチームを組みながら検討しています。その中の1つの骨子として今まで子どもたちに対する市では食育といっていますが、農協の方面からいくと食農教育について深く関わっていきこう、担い手作りを育てていきこうという観点から、学校行事の中にスクールサポート事業ということもありますけど、農協の方ではあぐりサポート事業とあぐりキッズスクール事業と2つに分けて学校に出向く事業と農協の方で企画したふれあい農園、体験農場的なものを家族揃って募集して来てもらう事業と2つの事業を検討しています。それぞれの学校、地域毎に食農推進協議会を組織し、その中には農協職員、理事、女性部、青年部、行政、PTA、区長、学校関係者、すべてを網羅して、その要望に答えていきこうというような組織づくりを検討しています。できることから1つ1つという風に思っています。1つの例でいえば、学校水田等々もあって、農家の方が応援いただいている小中学校もあるかと思いますが、そういうのに苦労されている学校もあるということもお聞きする中でお役立ちが農協としてできないかということ、それから反対に例えばとうもろこしを作ってそこに子どもたちが収穫体験に来るといって学校水田等々ではできないことがあるならば、そういうことも企画して迎い入れるというような企画をしています。平成27年からできる地区から順次スタートしたいという風に思っています。安曇野食農推進プランというようなものを骨子を作りまして現在学校教育課と連携して校長会の方にかけていただきながら応援が何かできないかということで数回コンタクトをとっているということでありまして、私もこの委員になっていてそちらのプロジェクトのリーダーにもなっています。このことは農業のことを考えると担い手うんぬんということも先ほど話の中に子どもの食育も大事なんですけどもそれを育てる親の方が食育知らないんじゃないかっていう声がありまして、親の食育、食農教育した方が大事だよなというようなことがあるもんですから、それも含めて、親子で参加できるような食農体験を通じて食の大切さ、体を作る命の大切さを波及できればと思っています。そういった面でご協力を願いたい場面が出てきようかと思っていますので、よろしくお願ひします。

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2週間以内に企画財政部まちづくり推進課へ提出してください。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。